

平成 16 年 12 月 2 日

## 小山内裏公園散策

平成 16 年 12 月 2 日（木）京王電鉄相模原線「多摩境駅」の北にある小山内裏公園を散策した。この公園は本年 7 月に開園したばかりの都立公園であり、総面積 45.9ha で、その 6 割が一般の立ち入りを禁止したサンクチュアリーとなっている。



上図はホームページ（<http://www.oyamadairi-park.com>）からコピーした公園全体図である。多摩境駅から多摩ニュータウン通りを北東（南大沢方面）へ進みトンネルの手前の階段を登ると南広場に着く（下の写真）。



更に坂を登ると立派に舗装された尾根緑道に着く。この道路は別名戦車道路と呼ばれ、第二次世界大戦の末期、陸軍造兵廠（現在の在日米軍相模原補給廠）で製造・組み立てられた戦車の性能テストと操縦訓練用に使用され、戦後しばらくは防衛庁が管理していたが、多摩ニュータウンの整備のための土砂運搬のため舗装され現在に至

っていると言われる。この地点が公園のほぼ中央で北側を見下ろすと里山広場



とパークセンターがありその背後に大きな体育館(?)そして更にその背後に南大沢方面の住宅が見える(左の写真)。尾根緑道は八王子市と町田市  
の境界の尾根の上を通っており、東に行くと東展望広場、右に行くと西展望  
広場があり、どちらからも遠方に丹沢  
山系を眺望できた(下の写真)。

尾根緑道の北側はほとんどがサンクチュアリーとなっており金網で囲われていた。金網にはところどころに、説明の看板がかかっており公園の自然についての説明があった。たとえば「どんぐりのなる木の仲間」、「サンクチュアリー」、「雑木林の木々」、「食べるもの、食べられるもの」、「野生のサクラ」などである。



尾根緑道を進み、太田切西谷戸サンクチュアリーのはずれからは遠く丹沢山系の背後に富士山が白い頭だけを覗かせていた。サンクチュアリーに沿って、山道を相生歩道橋の方向に進むと鮎道(津久井往還)があった。この道は昔、津久井の鮎を江戸の町へ運搬するための道であったと言う(下左の写真)。



この道をしばらく行くと右手に急な坂道があり、そこを下ると芝生広場を経て大田切池に至った(上右の写真)。この池のある谷は大田川の源流に当たり、大田川が切れるところにある谷戸と言うことから大田切谷戸と言います。大田川

はこの谷に湧き出る湧水を集めて北東に流れ、大栗川と合流し多摩川へ注ぎます。昭和 60 年ごろ、この付近の宅地造成に伴い、大雨のとき雨水が一度に川に出ないようにするため川をせき止めて池が作られた。この池の名、大田切池は小山内裏公園の開園に伴って命名されたと言う。池の中にある杉の枯れ木は、もと川岸にあったものが水没して枯れた。池の周囲はサンクチュアリーとしてもとの生態系が維持されていると言うが、人為的にせき止め池が出来ることによる生態系への影響はどう考えるべきだろうか？また、戦時中の戦車道路が戦後、尾根緑道と名称が変わり、時代の変化が感じられる。大田切池から東に行くとパークセンターやバーベキューの出来る里山広場に出る。そして、階段を登ると再び尾根緑道に出て、そこを横切って、坂を下ると南広場を経て多摩境駅へ戻る事となる。公園の東の方には多目的広場、草地広場、内裏池などがあるというが今日は行けなかった。多摩ニュータウン通りを南西に進むと右側に田端環状積石遺跡がある。ここからは冬至に太陽が丹沢山系の最高峰蛭ヶ岳に沈むと言われており古代人の祭りや宗教とかかわりの深い場所と考えられている。この他、多摩ニュータウン建設時に多くの遺跡が発掘され、古代人の生活の様子はかなり解明されたと言う。町田市博物館には多くの遺品が保管され研究されていると言う。数千年の歴史や環境問題との関連を考えながら散策が出来、非常に有意義であった。

下左の写真は西展望台の休憩所、下右の写真はサンクチュアリーである。

